

# [仙南地区]リハビリ・リレー通信 増刊号

発行元：宮城県仙南保健福祉事務所（仙南保健所）成人・高齢班 柴田郡大河原町字南 129-1 0224-53-3120（直）  
平成30年1月掲載

## 【特集】「自分らしい“生き方”“暮らし方”を考えるシンポジウム」の紹介

開催日・  
開催場所

- |               |  |
|---------------|--|
| ①【白石・七ヶ宿地区】   | :平成29年10月6日（金）/ホワイトキューブ（白石市文化体育活動センター） |
| ②【大河原・柴田地区】   | :平成29年10月28日（土）/えずこホール（仙南芸術文化センター）     |
| ③【蔵王・村田・川崎地区】 | :平成29年11月11日（土）/ございんホール（蔵王町ふるさと文化会館）   |
| ④【角田・丸森地区】    | :平成29年11月22日（水）/丸森まちづくりセンター            |

講師の土井先生



白石・七ヶ宿地区の様子



大河原・柴田地区の様子



蔵王・村田・川崎地区の様子



角田・丸森地区の様子



高齢化が進む中、からだ動きづらくなっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが継続してできるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

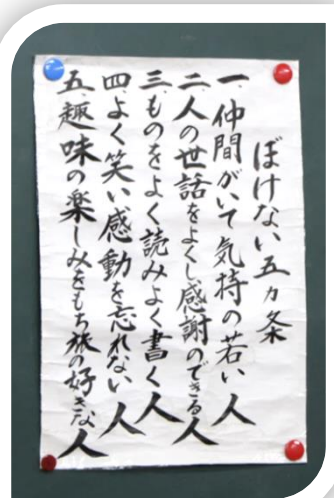
当所では、管内市町と共催で昨年10月・11月に、主に住民向けに介護予防（高齢者本人の参加意欲を基本に地域生活の中で活動性を継続的に高める取組）と自立支援（主体的な生活を継続するための支援）の啓発を目的とした「自分らしい“生き方”“暮らし方”を考えるシンポジウム」を4会場で開催しました。こうしたシンポジウムは今回が初めてとなります。

基調講演では、介護老人保健施設せんだんの丘の土井勝幸施設長から、「少子高齢化の中、私達一人一人が元気に生活していくことが大切、からだ動きづらくなっても地域の活動や介護保険サービスを上手に使いながらやりたいことを実現していくことが重要です」との話があったほか、専門的な支援や地域とのつながりを大切にして、仙南地域でいきいきと生活している方々からの実践報告がありました。参加者からは、「『したい』を支えるリハビリテーションのあり方を学べた」「実践報告を聞いて自分のことを真剣に考えて一歩ずつ歩もうと決意した」「自分らしい生き方をしたいと思うことは自立につながるのだとわかった」「元気なうちから自分らしい暮らしを考えるきっかけになった」との話が聞かれました。当所では、地域包括ケアシステムの実現に向けて、引き続き取り組んでいきます。

開催にあたり、実践報告をしていただいた皆さま、講師の土井先生、そして、準備にあたっていただいたスタッフの皆さまに深く感謝いたします。

～実践報告者女性最高齢の

菊地翠さんの句を紹介します！～



秋晴れや  
歩ける幸を  
かみしめて

秋桜  
いたわる声す  
垣根越し

あきざくら

<翠さんが通っている「いい日」の合い言葉です>